



長後地区キャラクター「さるてんくん」

長後青少協

発行 長後地区青少年育成協会
 発行者 島崎早苗
 連絡先 長後市民センター
 電話 (0466)44-1622

～ 令和6年度 活動報告 ～

春と遊ぼう・春の遠足「神奈川県立 生命の星・地球博物館」

3月8日(土) 参加人数 32人



コロナ禍によりしばらく実施が見送られていた青少協バス旅行が「春の遠足」として戻ってきました。

2台のバスで、小田原市にある「神奈川県立生命の星地球博物館」へ出発！途中渋滞もなく予定より早い到着になりました。

到着後、博物館の学芸員から博物館内の概要や注意事項の説明を受け、いよいよ館内見学です。子ども達は無くさないようにと注意された観覧チケットを大切に握り受付を通って行きました。館内では、地球誕生から現在まで46億年にわたる地球の歴史と生命の多様性をテーマとする常設展示や企画展の「すな～ふしぎをみつけよう～」を見学しました。また、青少協で作成した「博物館見学クイズシート」を解いたり館内2カ所に置かれたスタンプを見つけたりと楽しんでいました。

ひとり見学したあとは講義室でお弁当です。「お腹が空いたー。お弁当まだ？」と、到着直後から言っていたので待ちに待った時間だったのでしょ。ニコニコ嬉しそうに食べていました。

昼食後はミュージアムシアターに移動してインタラクティブクイズに挑戦。シアター内のおよそ三分の一の座席に設置されている回答ボタン付き座席に無事全員着席でき、怪盗から出されるクイズに真剣に取り組んでいました。

帰りのバスでは、ぐっすり夢の中の子も多く見られました。当日は雪がちらつく天候も影響し、館内が混雑していましたが、問題なく無事帰って来ることができました。

久しぶりの実施で想定外なこともあり、スタッフからさまざまな反省が寄せられました。これらを生かして次回の実施に繋げていきたいと思ひます。



青少協・防犯合同施設見学会「児童養護施設 強羅暁の星園」

6月25日(火) 参加人数 青少協21人・防犯11人

箱根登山鉄道強羅駅近く、緑豊かな自然の中に暁の星園があります。「暁の星」とは「人の歩む道しるべとなる聖母マリア」をあらわす名称としてシャルトル聖パウロ会によって名づけられました。

本施設は孤児や貧困家庭の子ども達を保護する目的で設立され、平成17年からは唐池学園に運営が継承され、現在2歳から18歳まで約50人の子ども達が暮らしています。

児童養護施設は、児童福祉法に基づき、何らかの理由で親と暮らせない子ども達が入所し、生活指導、学習指導、進学就職などの進路指導、家族関係の調整などを行っています。

私たちは、施設長の梶田さんをはじめスタッフの皆さんに迎えていただき、2班に分かれ施設内を見学しました。子ども達のほとんどは学校や幼稚園に行っていて、未就園児が保育士さんと遊びながら、笑顔で挨拶をしてくれました。

親が育てられない子を地域や社会で育てることを「社会的養護」といいます。暁の星園では、観光地箱根の地域社会の特性を活かして、より良い施設運営と社会的養護を目指しているとの説明がありました。

男子寮・女子寮と、2歳から小学校低学年が入る混成寮、共用施設がある棟があり、居室では家具の配置を工夫してプライベート空間を作るなど成長に応じた配慮をされていました。共用部分には源泉かけ流しのお風呂、食堂、娯楽室、洗濯室などがあります。

子ども達はここで生活しながら、地元の幼稚園や学校に通い、地域のスポーツ団体に活動したり、高校生になると地域のホテルでアルバイトをしたりして成長しています。

屋上から見上げると箱根の大文字山が真正面に見えました。毎年送り火には、園の卒業生が地元の方と協力して行事を盛り上げているそうです。

見学の後、会議室で梶田施設長のお話を聞きました。

本人の希望に関わらず、児童相談所の措置によってこの園に入所して来る子ども達の多くは、幼いながら過酷な体験をしてきています。その子ども達に安全安心な当たり前の暮らしをして欲しい、将来の夢を持って成長して欲しいとの思いを聞き、心を動かされました。

そして、園の年中行事や毎日の生活をまとめた動画を見てみると、子ども達とスタッフの笑顔があらわれていて、園の目指す社会的養護に向かって進んでいるのが感じられました。

進学・就職、家庭環境の変化などそれぞれの理由で子ども達は園を離れていきます。その後のアフターケアのため、実家に帰るような感覚で訪ねてきた時には、泊まれる部屋もあるとのことでした。

温かい心が子ども達に居場所をつくり、帰りたくなる園を作っているのだと感じ、学びの多い見学会でした。

キッズスポーツ大会・ビーチボール(旧公民館共催事業) 7月31日(水) 参加人数26人

前回好評だったビーチボールを昨年度も引き続き開催しました。今回は前半1～3年生と後半4～6年生のグループに分かれ、その中でチームを組み練習や試合を行いました。

初日に比べ最終日の子ども達は声も良く出ていてチーム力が上がっていました。試合は総当たり戦で行い、果敢にボールへ向かっていました。勝っても負けてもいい笑顔でした。試合が終わった子ども達は他のチームを応援したり、点数係りやボール拾いなどを手伝っていました。感想は「またやりたい、チームワークが大切、声かけをがんばりたい」など満足な様子でした。これからも参加しやすく楽しめる事業を行っていきたいと思います。



秋の大収穫祭・さつまいもほり 11月10日(日) 参加人数43人

曇り空の下、『さつまいもほり』が行われました。途中、雨が降ることもありましたが、子どもたちの元気なパワーで本降りを避け、無事に収穫を終えることができました。シャベルや素手で一心不乱に掘り、収穫したさつまいもを手にした満足そうな顔や、焼き芋を頬張る笑顔が印象的でした。この体験が子どもたちの成長に繋がることを願っています。



長後地区ふるさとまつり 10月19日(土)・20日(日)

たくさんの方で賑わったふるさとまつり。青少協は、ヨーヨー釣り・缶バッジ作り・おもちゃ・ラムネ・お茶・ブタメンの販売と盛りだくさんの内容で出店しました。

今回は子どもボランティアが復活。元気な声と明るい笑顔で、活気溢れる模擬店となりました。缶バッジ作りは、可愛い「ふじキュン♡」のイラスト紙やシールでオリジナルの缶バッジが作れると大人気。

今年もやります！子どもから大人まで、ぜひ自分だけの缶バッジ作りを楽しんでみてください！



長後子育てメッセ

6月11日(火)・11月19日(火)



地域全体で子育てをしよう！と、平成24年から年2回開催されています。

長後青少協は、参加団体として毎回ブースを担当しています。今回は、手形・足形スタンプとフレーム作りを実施しました。

今後も参加を重ね、お子さんの成長を感じていただけたら嬉しいです。



ふれあいサタデー・バスボム作り

2月22日(土) 参加人数28人

今回初めてバスボム(炭酸入浴剤)作りを行いました。

小さなスポンジのおもちゃ入りなど、カラフルなバスボムを作りました。帰ってからうちのお風呂で、家族の皆さんで楽しんでいただけたでしょうか？



ようこそ長後へ

地域の学校長へインタビュー

- ①長後の印象や子ども達の様子
- ②趣味や休日の過ごし方
- *令和7年度 着任の先生のみ

長後中学校 校長 作道 実



① 長後中学校の校舎に入る前に見える山々がとても好きです。校歌に「見はるかす丹沢箱根」とあるように、きっと古くからこの景色は多くの方に親しまれてきたのだと思います。歴史ある街並みと暖かさを感じるこの地域は、以前勤めさせていただいたときと変わらない感じがします。子ども達も素直で一生涯懸命、元気に毎日を送っています。いい学校、いい地域に赴任できて本当に嬉しく思います。

② 最近はできていませんが、登山は好きです。休日に時間を見つけ、ここからよく見える山々に登りたいと思っています。

青少年指導員について

学校・地域の青少年指導員が定期的に14:30頃から市民センターを出発して、学校や公園、通学路をパトロールしています。また、天満宮や七ツ木神社の祭礼の際は、周辺の夜間見廻りを行っています。また4月5日(金)の小学校の入学式に行われた「子ども安全一斉見守りデー」に、地域団体の一員としてパトロールに参加し、主に正門等で安全の見守りを行いました。12月4日(水)の「合同パトロール」では、各地区の青少年部長の方々と4か所に分かれ、通学路を中心にパトロールを行い、問題点などを話し合いました。

私たち指導員は、青い服を着て活動をしています。お気軽にお声掛けください。



令和7年度事業予定

- 5月 総会（書面開催）
- 6月 長後子育てメッセ
- 8月 キッズスポーツ大会（ビーチボール）
- 10月 長後地区ふるさとまつり
- 11月 秋事業（火起こし・カレー作り）
- 12月 工作事業（ふれあいサタデー）
- 3月 春の遠足

◎役員会・小委員会随時開催



※こちらの二次元コードでも青少協の活動状況を載せたHPがご覧になれます

編集後記

長年一緒に活動してきたTさんが、このたびお引越しにより最後の活動となりました。とても頼もしい存在で、たくさん助けていただきました。

本当にありがとうございました！新天地でのご活躍を心よりお祈りしています。

（島崎・壬生・富内・川原・後沢・田中・栗原・伊礼・岸本）